

ありあけうみ通信

ー有明海魚介類漁の再生を目指してー



第13号
(2016.7.4)

ごあいさつ

全国水産技術者協会と四つの機関からなるグループは、昨年度に引き続き、水産庁から「有明海水産基盤整備実証調査」の委託を受け、沖合にたいらぎ漁再生のための実証調査を行っています。

これまでの調査結果から、福岡県大牟田沖に造成した凹凸覆砂畝型工はタイラギの浮遊幼生の着底を促進し、タイラギの成長に悪影響を及ぼす浮泥の堆積を軽減するとともに、タイラギだけでなくかに類やいか類の漁獲の増加にも有効である可能性が明らかになってきました。

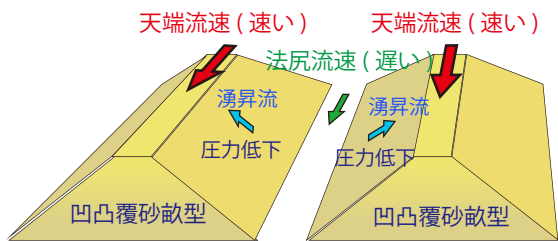
今年度は、この凹凸覆砂畝型工を8基造成した漁場でタイラギの生残・成長への効果の実証を行うとともに、タイラギの餌料量など好適な環境条件の解明、へい死原因の検討を通じて、たいらぎ漁をはじめとする有明海の漁船漁業再生に向けて調査に取り組んでまいります。

今年度も、「ありあけうみ通信」などを通じて、調査の進捗状況や解析の結果などを提供してまいります。

この調査は、日々、有明海で操業され、有明海やそこに棲む生物を熟知した漁業者の皆様のご協力が不可欠です。

お気づきのこと、ご意見などがあれば、是非、当協会までお寄せください。

凹凸覆砂畝型工による人工漁場

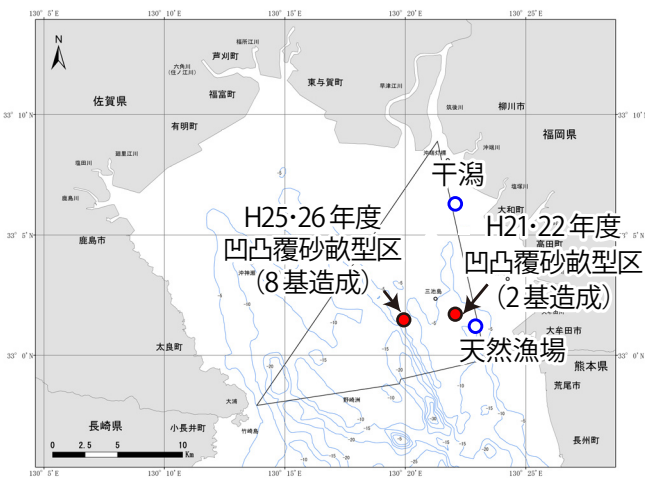


今年度もタイラギの着底状況を確認するために、2箇所凹凸覆砂畝型区、天然漁場および干潟において成貝および稚貝の生息状況を調査します。

調査は、平成二十八年四月から平成二十九年二月までの期間において、漁業者の皆様や福岡県、佐賀県等の研究機関からの漁況・海況に関する情報に基づき実施します。

①タイラギの着底状況の確認

平成二十八年年度業務における取組



代表機関 一般社団法人 全国水産技術者協会
Tel. 03-6459-1911 Fax: 03-6459-1912

いであ株式会社 株式会社シャトー海洋調査
株式会社オオスミ 株式会社日本海洋生物研究所

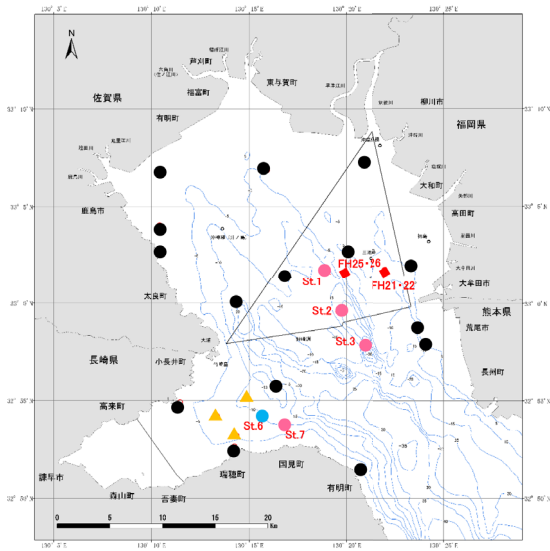
② タイラギ浮遊幼生の確認

造成した覆砂漁場へのタイラギ着底の参考データとして、タイラギ浮遊幼生の発生状況や覆砂漁場への来遊を確認するために、浮遊幼生調査を実施します。

今年度は四県協同調査の調査地点を補充する形で、2箇所の凹凸覆砂畝型区、諫早湾口部および有明海湾奥部における凹凸覆砂畝型工の造成適地で調査を実施します。

調査は六月から十月まで概ね七日から十日間隔で実施します。

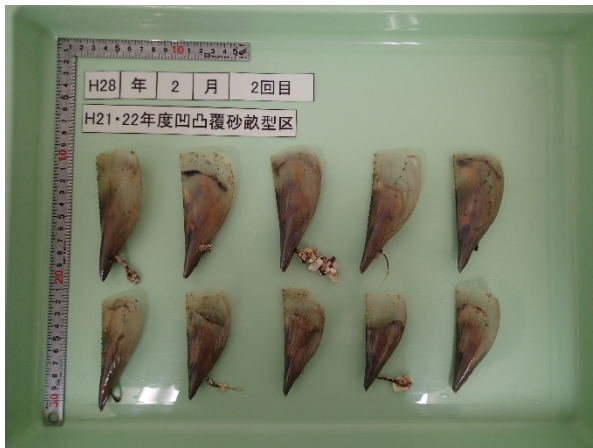
また、今年度より福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県の四県協同調査の二枚貝類の浮遊幼生調査と同様にポンプを用いた方法で試料を採取します（底層水のみ）。本事業では、浮遊幼生の来遊状況の結果を関係各機関に報告することにより、四県協同調査の二枚貝類調査に協力してまいります。



- : タイラギ浮遊幼生 調査地点 (凹凸覆砂畝型工)
- : タイラギ浮遊幼生 調査地点 【エンジンポンプを用いて下層の海水を採水 (四県協同調査手法)】
- : タイラギ浮遊幼生 調査地点 【小型プランクトンネットを用いて採水 (従来調査手法)】
- ▲ : 平成 27 年度までの調査地点 (諫早湾口部)
- : 四県協同調査 調査地点

③ 移植試験 (天然稚貝、人工種苗)

凹凸覆砂畝型工のタイラギ稚貝に対する生残・成長に関する効果、母貝成育場としての機能の実証を目的として、平成二十一・二十二年度凹凸覆砂畝型区に着底した二十七年級群ならびに有明海産のリシケタイラギを母貝として生産した人工種苗(平成二十六年度産・平成二十八年度産)を凹凸覆砂畝型工に移植し、その後の生残、成長等の経過をモニタリングしてまいります。



移植予定の天然稚貝 (平成 27 年級群)
(平成 28 年 2 月撮影)

④ 凹凸覆砂畝型の形状確認

凹凸覆砂畝型工の覆砂層厚は、時間の経過とともに低下していくことが想定されています。今年度は、平成二十一・二十二年度凹凸覆砂畝型区の施工後の形状を追跡調査し、造成工事の管理基準(施工時に必要な設計形状等)の策定に必要な情報を集積してまいります。

また、これまでの調査結果を整理することによって、凹凸覆砂畝型工の設計ならびに施工に関する管理基準、造成の手順等をまとめた手引書を取りまとめてまいります。

⑤ 漁業日誌調査

覆砂による漁場造成により、たいらぎ漁やたいらぎ漁以外の魚介類漁の増産効果が期待されます。このことから、刺網、かご漁業および釣漁業等の漁業者の方に操業日誌(操業場所や漁獲量を記録して頂く)の記入を依頼し、その効果を解析します。

また、有明海湾奥部における漁船漁業の実態を整理し、毎年変化する漁況に合わせた漁船漁業の持続的、効率的な管理方針を検討します。

⑥タイラギの飼料環境等の生息環境条件の確認と「立ち枯れへい死」の原因の検討

凹凸覆砂畝型工、天然漁場および干潟等で海水や底泥を採集し、それらに含まれるタイラギの餌の量や種類を場所ごとに比較します。また、連続観測機器を設置し、水温、塩分、溶存酸素量、クロロフィル量および濁度を連続的に観測し、タイラギが生息する環境の水質を把握します。これらの調査結果を比較することによって、タイラギの好適環境条件、「立ち枯れへい死」の原因を検討し、より効率的・効果的な事業展開に結びつけていきたいと考えています。

⑦たいらぎ漁業再生にむけた取組について

学識経験者、有明海沿岸の関係県の試験研究機関、漁業関係者等を構成メンバーとする検討委員会を組織し、相互に協力することによって効率的に調査を実施していきます。
また、ありあけうみ通信の発行等を通して皆様と有明海と漁業に関する情報を共有することによって、たいらぎ漁業再生にむけて取り組んでまいります。

平成二十八年年度業務における調査結果

タイラギ着底状況調査の開始

五月二日（十二日）にタイラギの着底状況を調査しました。昨年度調査において着底稚貝が多く確認された平成二十一年・二十二年度覆砂区では、1平方メートル当たり約9.2個体のタイラギが確認されました。
また、天然漁場では1平方メートル当たり約0.86個体でした。干潟では確認されませんでした。

タイラギ生息場における連続観測調査の開始

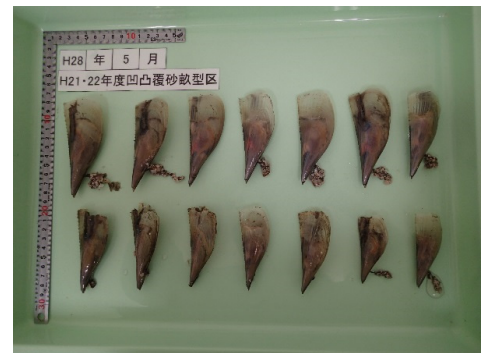
タイラギが生息する場所の環境や餌の状況を把握するため、関係機関から同意を得たうえで、平成二十一年・二十二年度覆砂区、平成二十五・二十六年度覆砂区ならびに干潟試験区において水質の連続観測調査を開始しました。調査は平成二十九年二月まで実施する予定です。
皆様も有明海やタイラギに関する情報があれば、随時、全国水産技術者協会までご連絡ください。



平成 21・22 年度凹凸覆砂畝型区
機器設置日 平成 28 年 4 月 29 日



干潟試験区
機器設置日 平成 28 年 5 月 11 日



5月12日に平成21・22年度凹凸覆砂畝型区
で採取したタイラギ（成貝）